

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 筑紫 高等学校

58

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>チャレンジ精神と豊かな発想力を備えた、心身ともにたくましい人材を育成する学校 生徒と教師が心を合わせる「師弟同行」の教育により、生徒の夢の実現に取り組むとともに、地域に根ざした探究学習を通して、主体的に未来を切り拓くことのできる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>「筑紫魂」を胸に宿し、高き理想を掲げ、未踏の世界を切り拓かんとする「志」あふれる未来人財の育成を図る。</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>「学びに向かう力・人間性等」を涵養し、社会で必要とされる主体性・自主性・協働性を育む。</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>高い「志」を掲げて目標達成のために、本校入学後継続的に学業や部活動・生徒会活動等に全力で取り組む意欲に溢れる生徒を求める。</p>

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>昨年度は志願倍率向上を図るために、教育活動全体の見直しを行い、10年ぶりとなる1.33倍(最終)の志願倍率を達成することができた。これは生徒目線に立った教育の方向性が、中学生や保護者の間で共感と賛同が得られたことや、動向分析等を踏まえた、募集人員や内定基準等の「入試設計」が的確であったこと、さらには、本校の魅力をインスタグラム等の広報活動を通して中学生によく浸透・訴求できたことによるものである。 本年度は、生徒の学校満足度をさらに高めるために、生徒目線に立った教育活動を展開しながら授業等のあり方を戦略的かつ不断に見直すとともに、職員の働き方改革を断行することで心理的安全性の高い職場環境を構築する。</p>	ICTを最大限に活用した授業およびDX教育の推進	生徒の自主性を育み、個に応じた教育活動を充実させ、生徒の学習意欲を喚起するために、生成AIや個別最適学習ツール(スタディサプリ)、タブレット端末等のICTを最大限に活用した授業およびDX教育を推進する。	A
	非認知能力の育成と観点別評価の在り方の見直し	積極性、遅しさ、創造性、他者とのコミュニケーション能力等の「非認知能力」の向上を図るとともに、観点別評価、とりわけ「学びに向かう力、人間性等」の評価方法の見直しを行うことで、生徒の学習意欲の向上を図る。	
	探究活動の改善とそれを生かした進路支援体制の構築	生徒自らが掲げる「高い志」の実現を図ることができるよう、「探究活動」の再編と改善を行い、活動を通じて得た学びの成果を、総合型選抜や学校推薦型選抜等の入試方式に生かして、進路実現を図ることのできる進路指導体制づくりを行う。	
	魅力的な県立高校となるための新学科コース設置の検討、教育課程改編構想、および広報活動の推進	選ばれる魅力的な県立高校であるために、時制、学校行事、校則等の見直しや、新たな学科・コース設置に向けた検討を行い、その際、生徒の願いや思いを積極的に反映させ、生徒にとって魅力ある教育課程づくりを行うとともに、広報活動を通じて取組を広く中学生に訴求する。	
	社会に開かれた教育課程の実現	生徒が誇りとする満足度の高い学校であるために、「学校運営協議会」を運用することによって、心理的に安全な教育相談体制と地域社会との協働体制を強固なものにすることによって、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	

自己評価				学校関係者評価				
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
				A	A		A	
教務課	個別最適な学びの推進	・生徒ファーストの視点から、スタディサブリを授業で活用することにより、個に応じた指導を行う。教科担当・担任・副担任・部活動顧問が連携し、生徒の到達度を把握し、その向上を図る。	・スタディサブリを利用している生徒:98% ・授業中に教材として利用:6% ・宿題で利用:63% ・自主学習で利用:29%	A	A	・ほとんどの生徒が宿題や自主学習でスタディサブリを利用していることがわかった。いつでもどこでも何回でも授業動画を見て確認テストに取り組み、隙間時間を有効に活用できている生徒がいることもわかった。授業での活用がほとんどできていない点が課題である。	A	・教育の根幹である主体的な学びが確立している。 ・自学時間のスタディサブリの活用方法を深めていただきたい。 ・授業でもスタディサブリが活用できるようにして欲しい。
	自走力の育成	・スタディサブリの多様なコンテンツの配信や教務通信等を用いて自走を促し、平日2時間、休日5時間の主体的な学習ができる生徒を育成する。	・学習時間調査結果 1年平日1.6時間 休日2.9時間 2年平日1.5時間 休日2.2時間	A	A	・学習時間調査の結果、平日約1.5時間、休日約2.5時間の学習時間であることがわかった。学習習慣の確立できていない生徒へのアドバイスおよび休日の学習への取り組みを促したい。		
総務課	式典を円滑に実施し、生徒の筑紫魂を育成することにも貢献する。	・式典については、各部署と相談した上で早めに要項を出す。創立記念式典は、事後の感想文を有効に活用し、学校に対する思いを共有できるようにする。	PTA総会における委任状(欠席)は1051人分の提出で、総会の参加者は65人であった。	B	B	・創立記念式典についてはzoomという形ではあったが、熱心に生徒が準備していたので良かったと思う。他の行事は、早めに準備するべきという反省点も多かった。	A	・校内のみならず地域との連携がなされている。 ・zoomでの講演会であったが、意見交換が活発で良かった。
	学校要覧や新入生のしおり等、印刷物や作成物を確実に仕上げる。	・年度初めの準備や学校生活において必要な印刷物の準備を確実にすることによって、教員も含めて学校生活が円滑に送れるように工夫する。	PTAと連携した肉まんのアンケートでは、1・2年生には肉まんの材料に関するアレルギーを持っているものは射ないことが分かった。	B	B	・学校要覧はきちんと仕上がった。夏の職員室引越しに関しては、座席表や戸袋の配置など、着実にその業務を行ったので、春も引き継いで行きたい。		
広報課	積極的な広報を強化し、体験入学者を増やし、受験倍率1.4倍を目指す。	・中学生体験入学や各種学校説明会をオンラインや対面で柔軟に実施する。第5学区内の中学校、学習塾への定期的な訪問を実施し、筑紫高校の魅力発信を行う。	・中学生体験入学当日参加者数974名 ・学校説明会ファイナルに参加してよかったと回答した生徒:99%	A	A	・積極的な広報活動を行うことで、様々な説明会の参加者人数を増やし、受験倍率の向上を目指す。	A	・中学・地域及び大学にも筑紫高の学びが伝わっている。 ・広報活動は多いに行った方が良いと思う。受験倍率アップを目指して欲しい。 ・中学校と高校の交流の場を増やしてみたらどうか。
	学校HPや公式Instagramを継続可能な運用を行う。	・HPや公式Instagramを活用し、本校生徒の日常や学校行事、部活動などの情報を積極的に発信する。また、広報課だけでなく生徒や教員で記事を作成できるように計画を立てる。	・Instagramフォロワー数:4462名	B	B	・Instagramの活用については、生徒会から投稿したいテーマや記事などを積極的に募る。 ・新HPの充実、定期的な更新を図る。		
生徒課	基本的な生活習慣の確立と規範意識の徹底、リーダーを育成し、学校を活性化させる。	・教育活動全般を通じて礼節を重んじる指導を展開。挨拶・時間厳守等の授業規律の指導を徹底。生徒会や部活動生を中心としたリーダー育成に重点を置き、生徒の活躍の場の増加、連帯感、帰属意識を高める。	学校行事等で生徒会を中心にリーダー育成に努め、地域との連携し、生徒の活躍の場を増やした。	A	A	来年度も学校行事で生徒会・3学年を中心にリーダーの育成に力を入れるとともに、筑紫野市や大学との連携を図り、生徒の活躍の場を増やす。	A	・常に礼儀正しく地域の人々に好印象を持たれている。
	生徒の実態を把握し、いじめの無い学校を目指す。	・いじめや不登校生徒の予防措置として、全職員による日々の生徒観察や月に1回のアンケート調査を行い、生徒の実態把握に努める。また、月に1回はいじめ防止対策委員会を効果的に機能させ、初期対応に重点を置いた対策を行う。	アンケートにて人間関係の相談が数件あったが、学年で早急に対応していただいた。	A	A	来年度も引き続きいじめアンケート・学校生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努め、早期対応を徹底していく。		
保健課	生徒の心身の健康を保持向上させる。	・感染症対策や熱中症対策など健康維持に関連するリーフレット等を掲示・配布することで生徒の健康意識を高める。SCとの連携をとおして生徒の心のケアを行い、個に合わせた支援により安心安全な学校生活を支援する。	・SC希望調査 ・学校生活アンケート	A	A	来年度もSCやSSWなどの外部機関と密に連携を図ることで、生徒の心身の悩みの相談体制を充実させていく。	A	・一人ひとりの生徒の生徒の心と健康を育む体制が整っている。
	校内の安全管理を実現する。	・防災避難訓練をとおして校内避難経路図やハザードマップを生徒に確認させ、職員と生徒の防災意識を高める。また、薬物乱用防止講演会をとおして生徒に生命を尊重する心を育て、規則尊重心を高めさせる。	防災避難訓練の振り返り	A	A	来年度も外部機関と連携することで、安全管理にかかわる生徒の意識の向上を図っていく。また、校内の美化状況を向上させるため、校内清掃の在り方を見直していく。		
進路課	各学年と連携して、高い志をもった生徒を育成する。	・3年間を見通した進路指導計画を作成し、各学年の適切な時期に進路通信の発行や講演会、学年集会を実施し、生徒の進路意識を高める。	進路希望調査	A	A	進路指導を実施する時期や内容を確立し、教員間で共有する。学年間や教員間で温度差のない進路指導を目指す。	A	・学区及び全県を代表する進学実績が認められる。 ・2年次での進路選択(理系・文系)がスムーズに行えるように情報を提供して欲しい。
	動画教材や課外、講座を活用し、個別最適な学びを実現する。	・放課後課外や難関大講座を実施し、実力養成を図るとともに、生徒同士が互いに刺激し合い、高め合う空気を生み、波及させる。また、各教科と連携し、生徒の習熟度に応じてスタディサブリを活用する。	スタディサブリ到達度・活用度テストアンケート	A	A	生徒の進路希望に沿ったスタディサブリの効率の良い利用方法やシラバスを生徒に提示し、自走できる環境を整えていく。		
探究課	探究活動の再編と改善を行い、高い志と実践力をもつ生徒を育成する。	・探究活動にデータサイエンスの視点を取り入れることで、より実証的な分析を行い探究の質を高める。また、生徒の学びの履歴を記録・蓄積し、学校内外のフィードバックを受ける機会の充実を図る。	・データサイエンス講演会振り返り(データ活用の重要性に気付いた生徒多数) ・スポーツアナリスト振り返り・大学准教授の講評(データ分析への高い関心・理解)	A	A	今年度実施した様々な取組を継続・発展させる(近隣の大学等と連携したProjectC前段階のカリキュラム構築、メタ視光の取組のロードマップ作成、リクルート社員によるメンタリングや講演会実施、観光協会Instagramの運営等)。	A	・データサイエンス、生成AI等の活用など実践的ではほしい。
	自走する力を強化し、社会の変化に対応できる生徒を育成する。	・社会人講演会・佐賀大学研修・筑紫アカデミックツアー等とおして、生徒が自己のキャリア形成に興味・関心をもてるよう促す。また、語学研修を含む校外研修を充実させる。	・社会人講演会アンケート(適切な内容) ・佐賀大学研修アンケート(大学職員による講演が集積しやすかった。施設見学時間不足) ・外部研修10件以上実施	A	A	社会人講演会は講師打合せを実施し、要望通りの講演となった。佐賀大学研修は施設見学の時間確保が必要である。外部研修や探究活動の成果発表の場を確保し、生徒の成長を促すとともに、参加意欲の向上を図る。		
研修課	教科教育力の継承と授業力向上	・相互授業参観や研究授業などを活かして、学年や教科の枠を超えた研修になるよう強く意識、計画する。	・教育実習生満足度100% ・職員研修への満足度99% ・次年度実施希望内容は、スタサブや職員同士での意見交換などがあった。	A	A	・相互授業参観期間が短いため、次年度は、教育実習期間も含めた期間の延長ができると、もっと参観していただきたいやすいのではないだろうか。	A	・生成AI、データサイエンスの職員研修は他校に先がけて実践されている。
	生徒の読書活動の推進	・作品鑑賞に積極的に参加し、知的財産を蓄えることに触れさせる。	・平日図書館デー実施結果満足したと解答した生徒98.4%	A	A	・DX推進課による図書館への電子黒板・書画カメラの設置が行われ、今後はさらに図書館の活用が推進されると期待できる。		
		・図書館の本と同時に、県立図書館の電子書籍を利用し、読書活動を推進する。		A	A			

様式3

DX推進課	ICT機器の環境整備及びホームページによる情報発信	・生徒一人一台端末やその他ICT機器を管理・運用し、DX教育を推進するための環境を整備する。 ・広報課と連携し、学校ホームページを新システムに移行する。	2教室で電子黒板新規運用。DXハイスクール事業によるICT機器導入については年度内に完了見込み。	B	A	A	DXハイスクール事業に係る機器について職員・生徒が使いやすい環境に整えていきたい。学校HPは新システムへ移行し見やすくリニューアルすることができた。今後も広報課と連携して更新していきたい。 多数ある学習支援ツールの中からニーズに応じて職員研修を行っていきたい。新入生の入学後すぐに一人一台端末活用のための研修ができたので次年度も早期に研修を行いたい。	A	・地域の大学等との共同研究が確立している。
	教員及び生徒のICT研修の充実	・ITリテラシーの向上と授業改善のための職員向けICT研修を行う。 ・学習支援ツールについては生徒向け研修を行うなどスムーズな情報教育を実現する。	希望参加制のFigma講習会に21人の教職員が参加。	A A					
1年	高校生活に必要な基本的価値を育成する。	・筑紫Basicにより基礎基本を身に付けさせ、その後も継続して規範意識、帰属意識を高める。校是「師弟同行」の理念を継承しつつ、多様性を尊重し、主体的、協働的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。	・筑紫Basicの振り返りにおいて、「筑紫生としての基礎基本を学ぶことができた」という回答が多かった。	A	A	A	筑紫Basicや筑紫祭、体育大会などの学校行事を通し、筑紫高校生としての基礎を身に付けることができた生徒会活動に積極的な生徒が多く、次年度は学校行事へ参画する意識をさらに高めていく。 11月に行った志望校調査において289名の生徒が国公立大学を第一志望としている。また、冬の学習会に281名、自走力養成に85名が参加する。生徒の進路実現に向けて支援を継続していきたい。	A	・師弟同行の精神がすべての学校生活でうかがえる。 ・大学入学がゴールにならないように大学で何を学び、それをどのように活かして生きるかを伝えて欲しい。
	将来を見据えた学習習慣を確立する。	・総合的な探究の時間や校内、校外における研修をはじめとする探究活動を推進することにより、自身の生き方や学問を深め、将来像を見据えたキャリア教育の充実を図る。	・志望校調査において生徒289人(72%)が第一希望を国公立大学と回答	A					
2年	自律型人材の育成	・総合的な探究の時間をはじめとする探究活動を推進し、自身の進路目標達成に必要な方向性を定めさせる。また、前例のない活動に対しても積極的に参画する創造力を培う。	志望校調査において生徒390人が回答し65%が第一希望を国公立大学と回答	A	A	A	12月に行った生徒に対する進路希望調査において250名を超える生徒が国公立大学を第一希望としていることが分かった。高い志を持ち、希望進路の実現に向けて学習面の支援を継続して行いたい。	A	・スタディサプリの効果的な活用と早期の進路目標が確立している。
	自己肯定感を高める。	・学校行事や部活動等における役割経験をとおして、自己有用感を高める。また、スタディサプリの活用等により、個別最適な学びを支援し、生徒の学習における成功体験を増やす。	スタサブ利用状況アンケートにおいて93%の生徒がスタディサプリーを利用したと回答。利用内容については50%が復習に活用していると回答。	A					
3年	個に応じた進路指導による進路実現	・第一志望への合格に向けて生徒一人一人に対して様々な入試形態を検討し、国公立大学100名以上、難関大学5名以上の合格を目指す。	・教務課からのスタディサプリー利用状況アンケートによると98%の生徒がスタディサプリーを活用している。	B	A	A	国公立大学学校推薦型選抜、総合型選抜の合格者は12名であった。多くの先生方で育て引き上げていただいた結果であると思う。タブレットが自由に活用できる環境が個人の学習機会を増加させた効果はあると考える。その一方で情報リテラシーや授業規律についての指導を徹底していく必要がある。	A	・生徒自らの夢を実現すべく目標に向かって学ぶ姿勢が明確に伺える。 ・進学校としての学区・県全域の一つの代表校である。
		・タブレットやスタディサプリー等を活用し、成績層ごとにポイントを絞った学習指導、進路指導を行うことで、生徒自身の自走力を伸ばす。	・部活動、学校行事で学校全体を牽引し支えるリーダーシップ、フォローアップを発揮させる。最高学年として全体を見渡す視点をもつよう助言をする。	A					
	筑紫生として誇れる姿を残す。	・進路部と連携し、新課程入試の情報を早く入手し、教員間、生徒教員間で正確に情報を共有する。	・学校行事の振り返りにおいて、「自らの能力を伸ばすことができた」という回答が多かった。	A					
		・挨拶、集会での集合状況、校歌斉唱などで筑紫生として模範となる姿を残す。「当たり前」の事を当たり前以上に行うことを体現させる。 ・学年団が一枚岩となって生徒が貪欲に学習に励む姿をバックアップし、生徒に諦めさせない指導を教員側も諦めず継続して行い、生徒全員が納得して卒業の日を迎えられるよう支援する。	・アンケートにて人間関係の相談が数件あったが、担任、生徒課を中心に学年で対応することができた。	A					
事務室	安心安全な施設設備の管理	・大規模改修工事中であっても生徒が安全に学校生活を送ることができるよう、期間中の工事に関する情報を職員間で共有し、安全確保に努める。	・産業医による校内チェックの結果、特に問題なしとの見解が示された。	B	B	B	次期工事についても改修工事に係る情報を共有し、安全確保に努める。	A	・工事に関しては地域に配慮していただき感謝しています。引き続きよろしくお願ひしたい。 ・教師、生徒、地域と連携して業務がなされている。
	費用対効果を考慮した予算執行	・職員間で連携し、意見交換を踏まえ上で学校運営に必要な予算執行を行う。予算執行にあたっては優先順位を十分考慮する。	・PTA役員会において本校DX推進化に係る経費(主に設備投資後の維持費)について意見交換を行った。	B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主語・主役として学校生活を送ることができるように教育環境を整えるとともに、「非認知能力」の向上を図り、心身ともに健康な生徒の育成に努める。 ・広報活動を更に充実させ、中学生やその保護者に筑紫高校の魅力を伝え、志願倍率の向上を図る。 ・主体的・対話的な深い学びが確立し、すべての教育活動に筑紫魂が反映していることに対して、更に地域に知ってもらいたい新しい施策を学校運営委協議会委員と共に企画・実行する。 ・DX加速化推進事業(DXハイスクール)によって整備された環境を最大限に活用し、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
生徒・教師共に筑紫魂のもとに進む姿が力強い。	